

LC モデリスタバージョン

フロントスポイラー 取付要領書

品番 D2531-62910-**
MSD41-11001-**

設定型式: URZ100/GWZ100 設定グレード: 全グレード

このたびは、モデリスタ商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本書は、フロントスポイラーの取付要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付けを行なって下さい。

取り付け上の注意事項

- 商品の仮合わせ時等においては、マスキングテープ等で車両側への傷付き防止策を行なった上で実施して下さい。
- エンドモール（両面テープ付き）・両面テープを貼り付ける部分は、必ず脱脂して下さい。脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれる場合があります。
- フロントスポイラーを取り付ける部品の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで拭き取って下さい。
- 両面テープの接着力促進剤として、必ず両面テープ用プライマーを塗って下さい。（PACプライマーN200を本品に添付）
- 重要** プライマーの効力を発揮させる為、塗布後、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。
- 重要** ■両面テープは、外気温が15℃以下になると接着力が低下しますので、両面テープ及び被接着面をドライヤー等で温めてから貼り付け作業を行なって下さい。
- 両面テープのプライマーは、溶剤が揮発する為、速やかに作業を終了して下さい。
- 両面テープのプライマーは、特に塗装面を黄変させますので必ず塗装面をマスキングし、はみだしたプライマーは、アルコール等で拭き取って下さい。
- 重要** ■両面テープの圧着を十分に行って下さい。49N (5kgf/cm²) 以上

取り付け完了後の点検・注意事項

- フロントスポイラーが、車両に確実に貼り付けされているか点検して下さい。
- 両面テープの全ての離型紙が剥がされ、確実に圧着されているか点検して下さい。
- 取り付け完了後、フロントスポイラー及び車両部品に傷がついていないか点検して下さい。
- 取り付け完了後、最低3時間は強い力をかけたり、雨等で濡れない様注意して下さい。（両面テープの剥がれ、車両とフロントスポイラーとの間に隙間が発生するおそれがあります。）



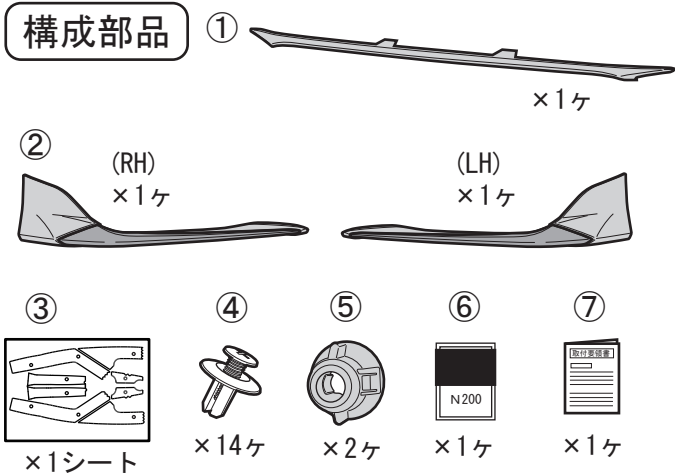
アドバイス・・・この取付要領書では、スピーディーに安全な作業をして頂く上で知っておいて頂きたい事を左図マークで表示しております。

LC モデルスタバージョン

フロントスポイラー

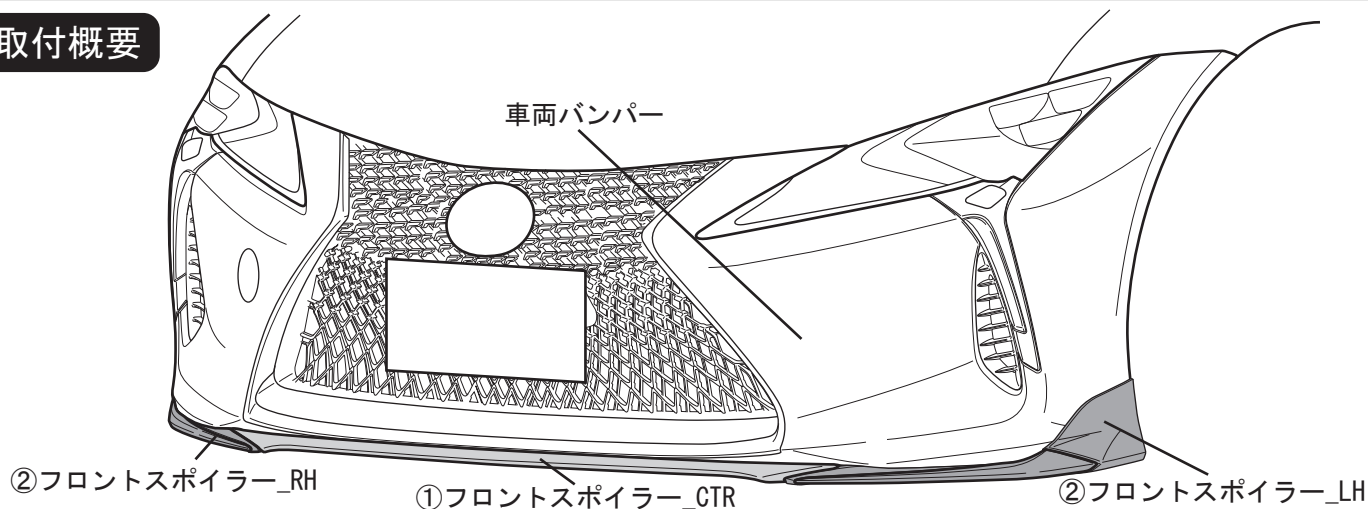
品番 D2531-62910-**
MSD41-11001-**

構成部品



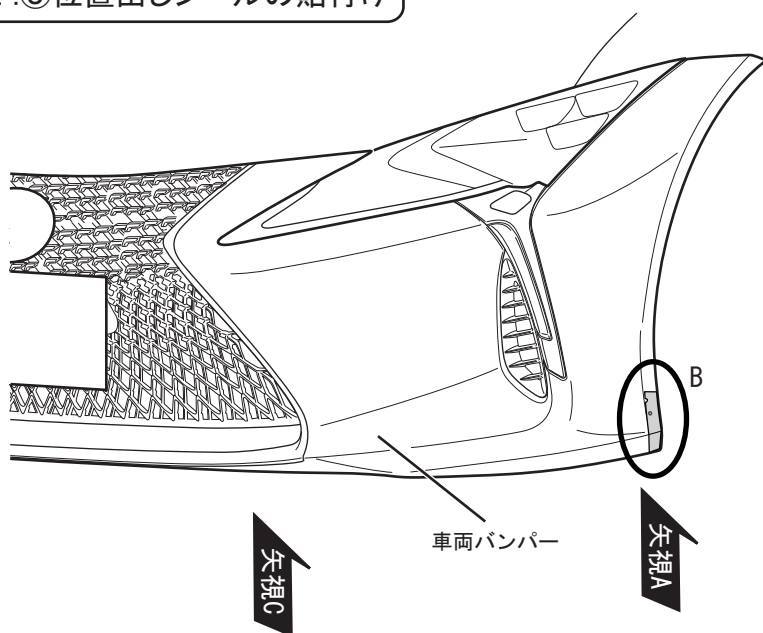
No.	品名	個数
①	フロントスポイラー_CTR	1ヶ
②	フロントスポイラー_LH/RH	各1ヶ
③	位置出しシール_LH/RH	1シート
④	スクリベット (49K8)	14ヶ
⑤	M6 クリップ	2ヶ
⑥	PACプライマー N200	1ヶ
⑦	取付要領書	1ヶ

取付概要



取付手順

I. ③位置出しシールの貼付け

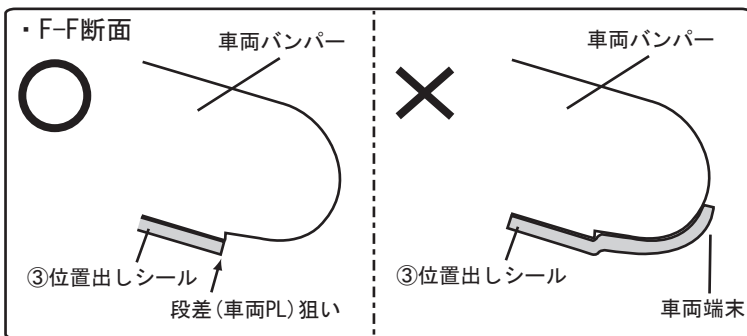
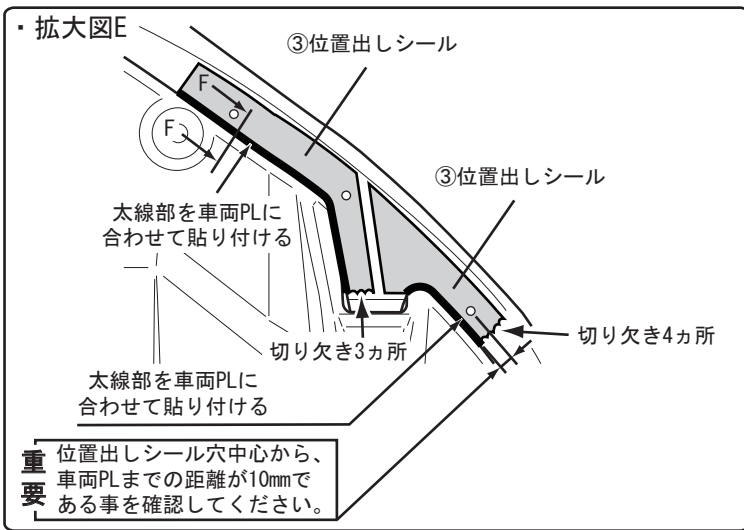
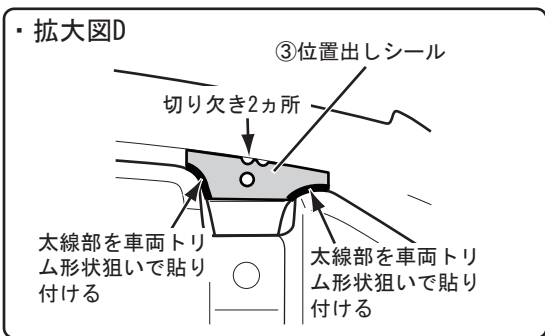
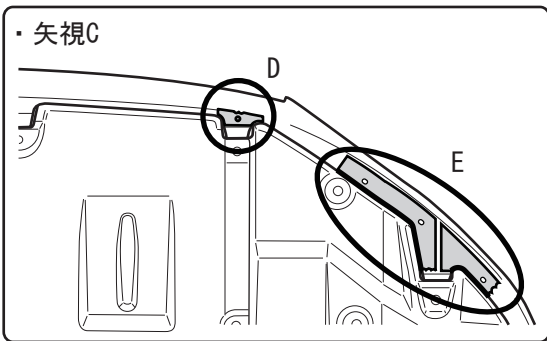
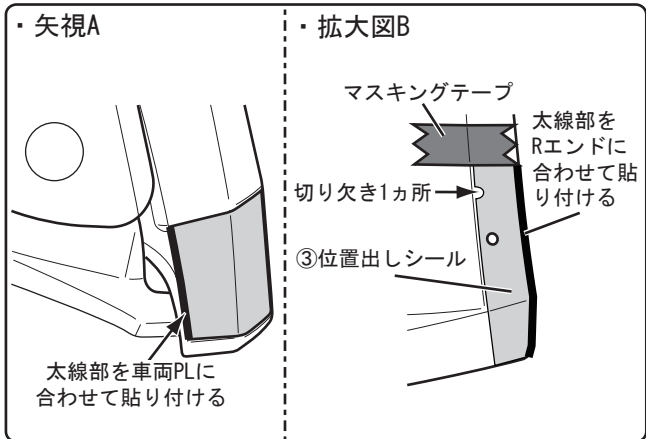


※以下の手順は車両CLからLH側を图示しています。
RH側も同様に作業を行って下さい。

1. ③位置出しシールを車両バンパーへ貼り付ける。
(図1参照)

※L/Rの識別は、切り欠きの凸凹で識別しています。
(LH: 凹切り欠き RH: 凸切り欠き)

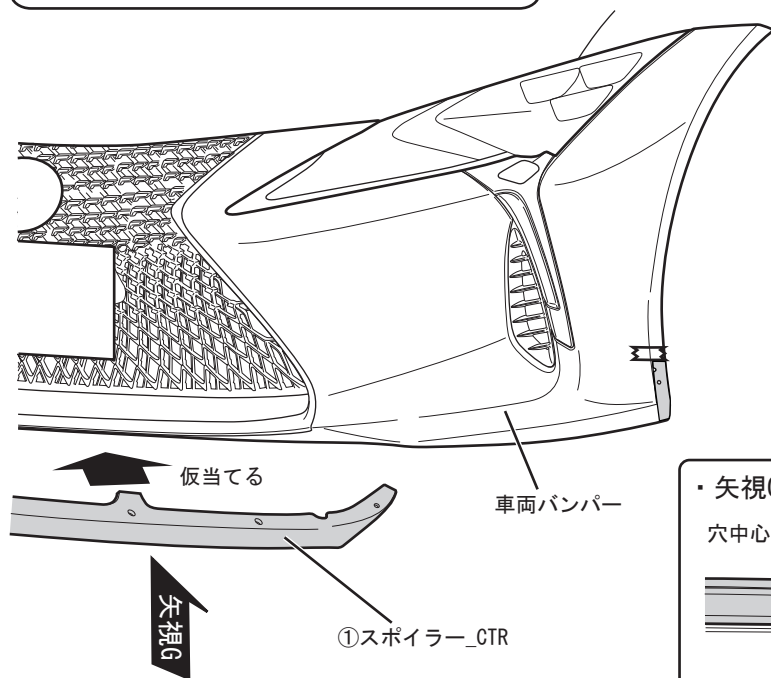
※切り欠き4ヶ所の位置出しシールの穴位置は
製品の取り付けに大きく影響が出ますので、
シール貼付後、穴中心が、車両パーティン
グライン (以降、車両PLと省略) から10mm
の位置にある事を必ず確認して下さい。



2. マスキングテープを③位置出しシール（切り欠き1カ所）の上端に合わせて貼り付ける。（図1 拡大図B 参照）

※②フロントスポイラー_LH（以降、スポイラー_LHと省略）の取付高さ基準となります。

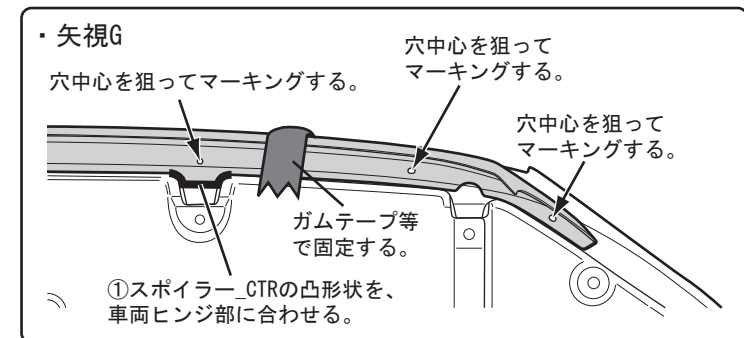
Ⅱ.①フロントスポイラー_CTRの仮当て



1. ①フロントスポイラー_CTR（以降、スポイラー_CTRと省略）を左図の要領で車両バンパーへ仮当てし、ガムテープ等で固定する。（図2 参照）

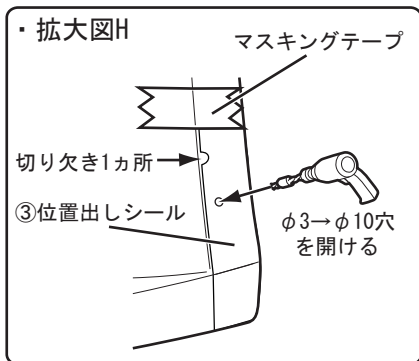
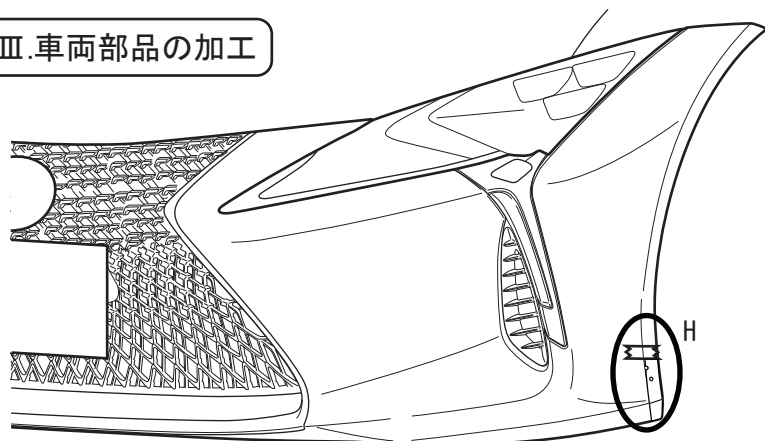
2. 車両下面の①スポイラー_CTRの穴中心を狙ってマーキングする。（図2 矢視G 参照）

3. ①スポイラー_CTRを車両から取り外す。

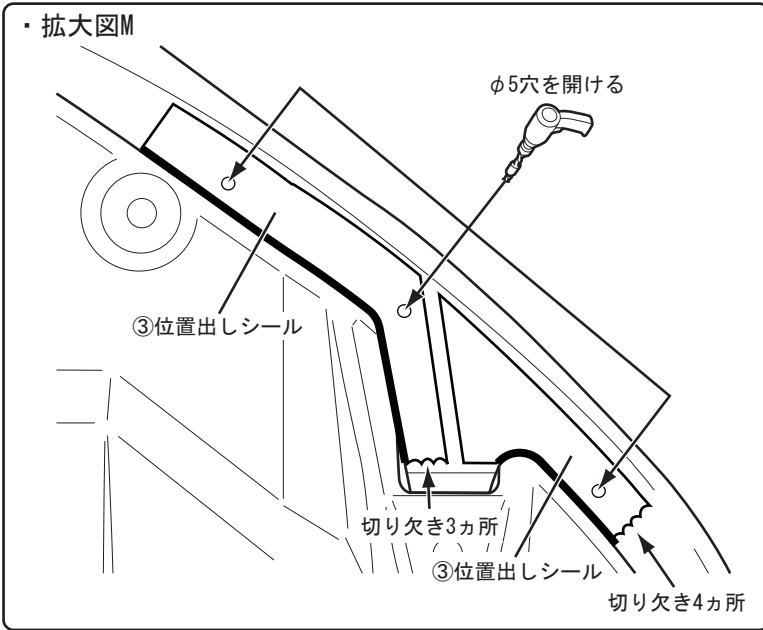
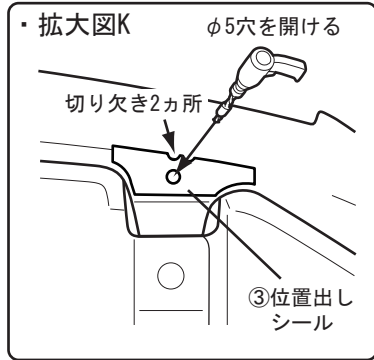
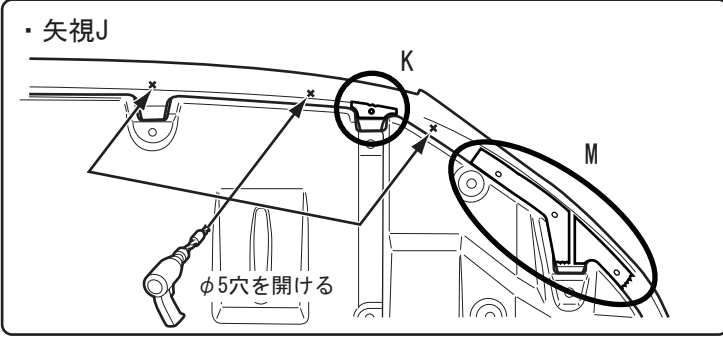


<図2>

Ⅲ. 車両部品の加工



矢視J



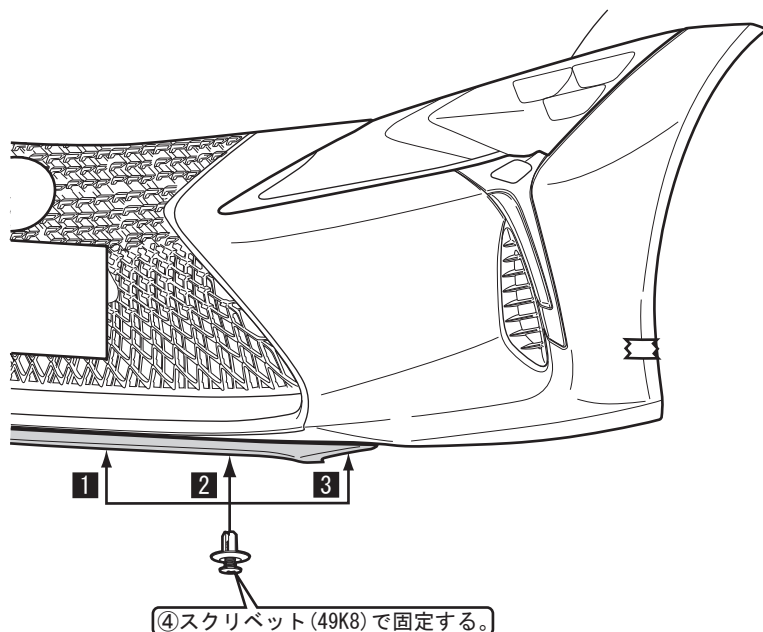
⚠ 1. 2. 穴開け加工時の注意

突き抜け防止のため、ドリル先端から10mm程度のところにマスキングテープ又はガムテープを巻いて下さい。

1. 前項にて位置出しをした箇所に、φ5穴を開ける。(図3 矢視J, 拡大図K, 拡大図M 参照)
 2. ③位置出しシール(切り欠き1カ所)にφ10穴を開ける。(図3 拡大図H 参照)
- ※φ3→φ10の順に穴開けを行ってください。
3. ③位置出しシールを全て剥がす。

<図3>

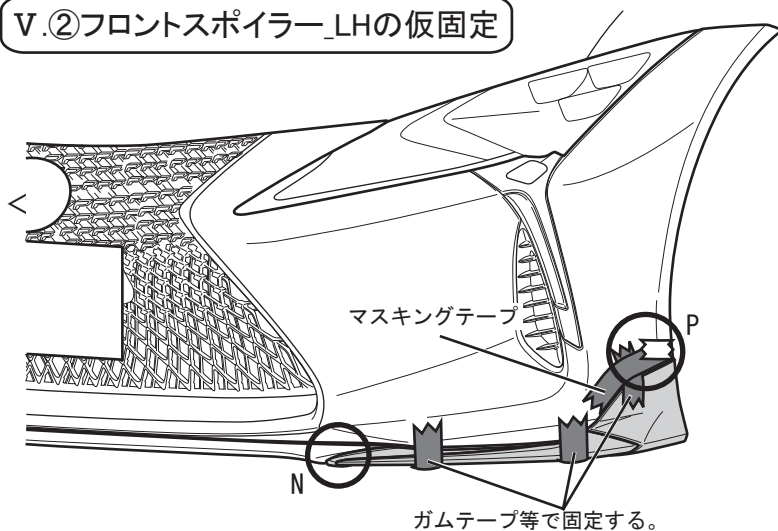
IV.①フロントスポイラー_CTRの取付



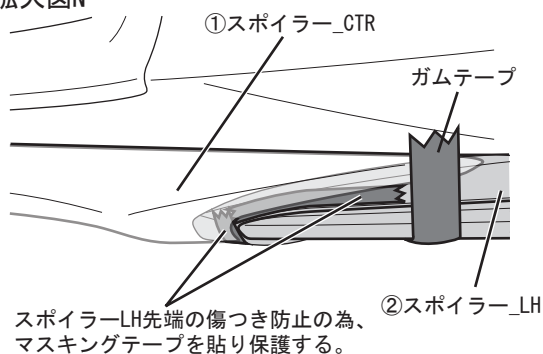
<図4>

- ①スポイラー_CTRを仮当て時と同様に仮当てし、下面の取付穴に④スクリベット(49K8)を①～③の順に差し込み固定する。(図4参照)

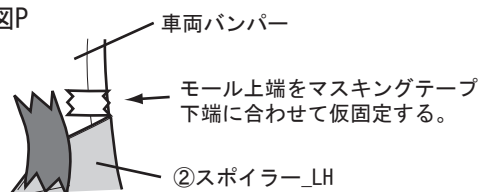
V.②フロントスポイラー_LHの仮固定



・拡大図N



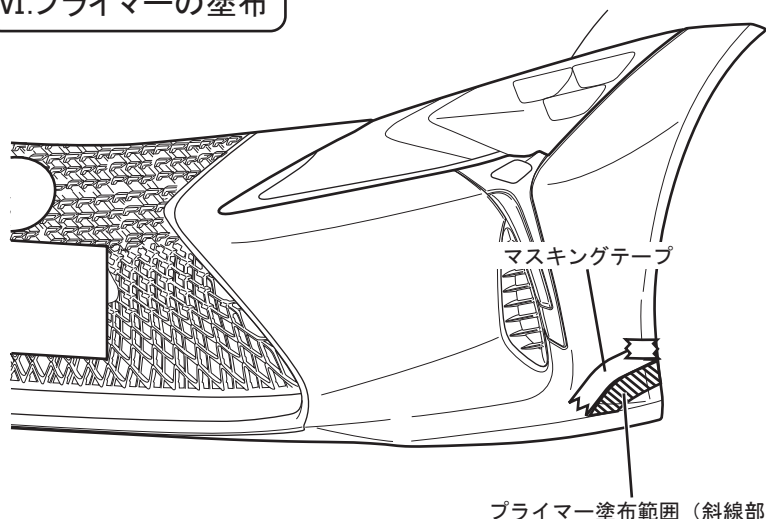
・拡大図P



<図5>

- ②スポイラー_LH先端の傷つき防止の為、①スポイラー_CTRにマス킹テープを貼り保護する。(図5 拡大図N 参照)
- ②スポイラー_LHのモール上端を、前項にて位置出しシール(切り欠き1カ所)上端に貼り付けたマス킹テープ下端に合わせて仮当てし、ガムテープ等で固定する。(図5 拡大図N 参照)
- ②スポイラー_LHのエンドモール上端に合わせて、マス킹テープを貼り付ける。(図5 参照)
- ②スポイラー_LHを車両から取り外す。

VI.プライマーの塗布



<図 6>

1. 両面テープ貼付部 (図 6 斜線部) を脱脂し、⑥ PACプライマー N200を塗布する。



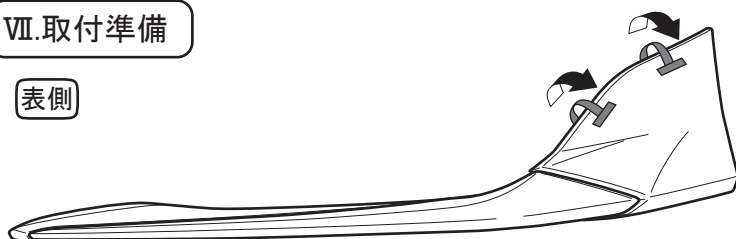
アドバイス

- ・ PACプライマーN200は特に塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、アルコール等で拭き取って下さい。
- ・ PACプライマーN200塗布後は、常温で10分以上放置し乾燥させて下さい。
- ・ ボディーコート処理されている車両は、マスキングをして両面テープ貼り付け部分を塗装用コンパウンドで除去して下さい。

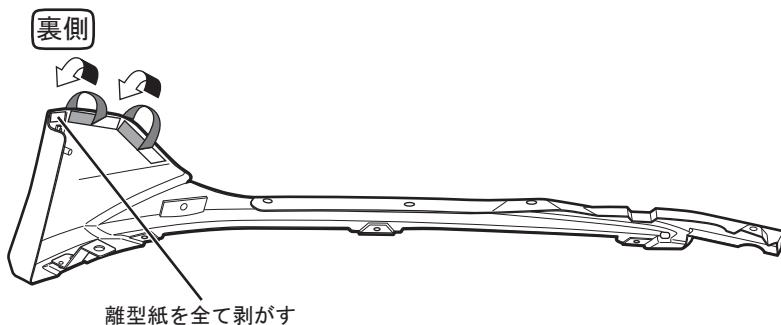
2. 取付位置出し用のマスキングテープのみ残し、それ以外を全て剥がす。

VII.取付準備

表側



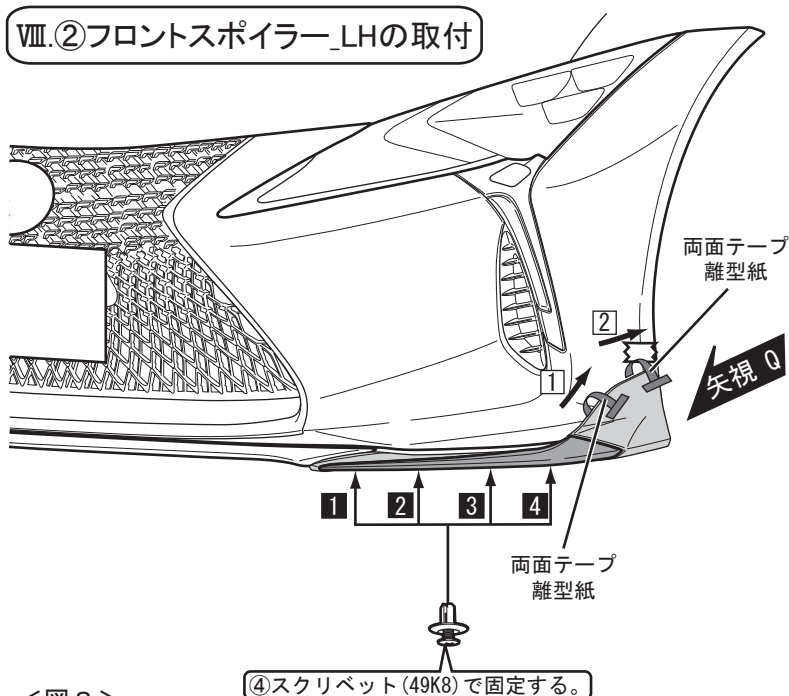
裏側



<図 7>

1. ②スポイラー_LHの両面テープ離型紙を少し剥がし、表側へ折り返してマスキングテープで固定する。(図 7 参照)

VIII.②フロントスポイラー_LHの取付



<図 8>

1. ②スポイラー_LHを仮当て時と同様に仮当てし、下面の取付穴に④スクリベット (49K8) を①～④の順に差し込み固定する。(図 8 参照)



アドバイス

- ・ 両面テープの貼り直しをすると、接着力が極端に低下します。バンパーにつかない様に気を付けて作業して下さい。

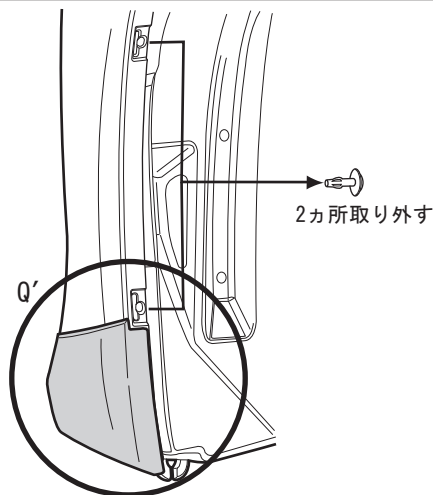
2. 両面テープ離型紙を①～②の順に引き抜きながら圧着する。(図 8 参照)



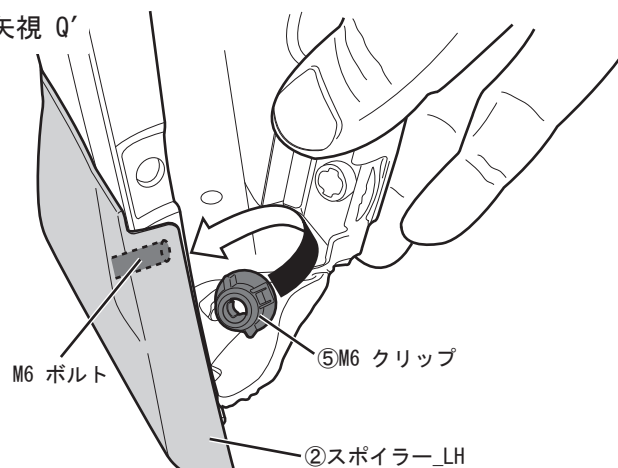
アドバイス

- ・ 離型紙が途中で切れない様に、スポイラーを少し浮かせながら離型紙を引き抜いて下さい。
- ・ 両面テープの圧着は、49N (5kgf/cm²) 程度の力で行って下さい。

・矢視 Q



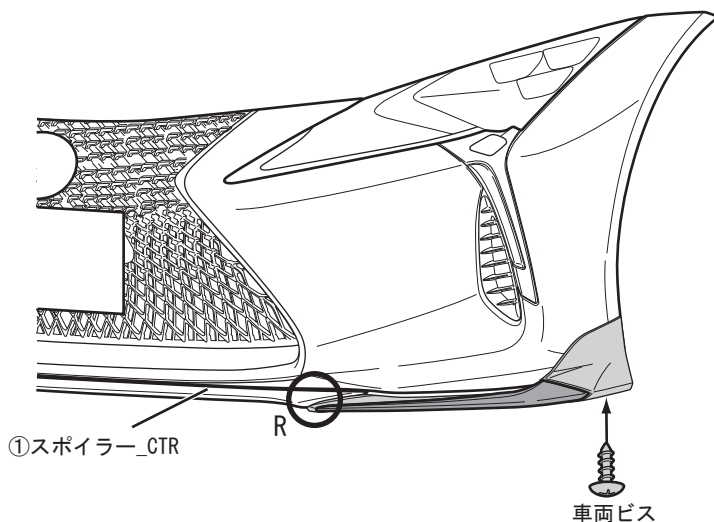
・矢視 Q'



3. フェンダーライナーを固定しているクリップ (2カ所) を取り外す。(図8 矢視Q 参照)

4. 車両タイヤハウス部から車両バンパー裏面へ手を入れ、⑤M6 クリップをM6 ボルト部に取り付ける。(図8 矢視Q' 参照)

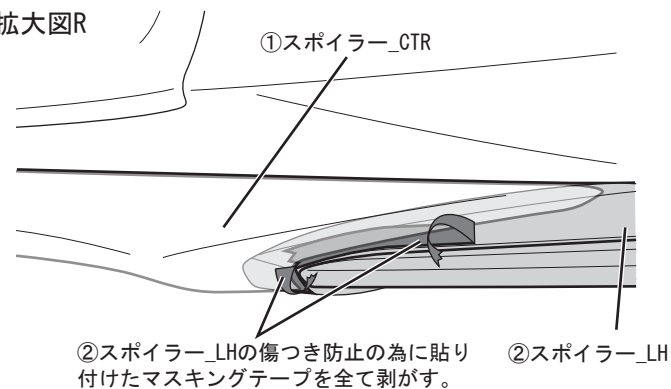
5. フェンダーライナーを固定していたクリップ (2カ所) を取り付ける。



6. ②スポイラー_LH下面のブラケット位置に合わせて車両ビスを本締めする。(図9 参照)

7. 車両に貼り付けてあるマスキングテープと②スポイラー_LHの傷つき防止の為に貼り付けたマスキングテープを全て剥がす。(図9 拡大図R 参照)

・拡大図R



8. ①スポイラー_CTR、②スポイラー_LH/RHの浮き、剥がれが無いことを確認し、両面テープ貼り付け後、3時間以上放置し**再圧着**して取付作業終了です。

フロントスポイラー素地品の塗装手順

構成部品

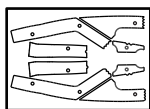
①(材質：HA-ABS 未塗装品)



②(材質：HA-ABS 未塗装品)



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



No.	品名	個数
①	フロントスポイラー_CTR	1ヶ
②	フロントスポイラー_LH/RH	各1ヶ
③	位置出しシール_LH/RH	1シート
④	スクリベット (49K8)	14ヶ
⑤	M6 クリップ	2ヶ
⑥	PACプライマー N200	1ヶ
⑦	取付要領書	1ヶ
⑧	メッキガーニッシュ_LH/RH	各1ヶ
⑨	クリップ (1028)	6ヶ
⑩	M5 ナット	2ヶ
⑪	エンドモール	グレー:1ヶ ブラック:1ヶ

色番号	色名称	モール色
083	ホワイトノーヴァガラスフレーク	グレー
1J2	ソニックシルバー	グレー
1J7	ソニックチタニウム	グレー
1G0	ダークグレーマイカ	ブラック
212	ブラック	ブラック
223	グラファイトブラックガラスフレーク	ブラック
3T5	ラディアントレッドコントラストレイヤリング	ブラック
5C1	ネーブルスイエローコントラストレイヤリング	グレー
8X5	ディーブブルーマイカ	ブラック
6X4	テレーンカーキマイカメタリック	ブラック
4Y1	ブレージングカーネリアンコントラストレイヤリング	ブラック
1L2	ソニックイリジウム	グレー
1L1	ソニッククロム	ブラック
4Y5	ソニックカッパー	ブラック
8X1	ヒートブルーコントラストレイヤリング	ブラック

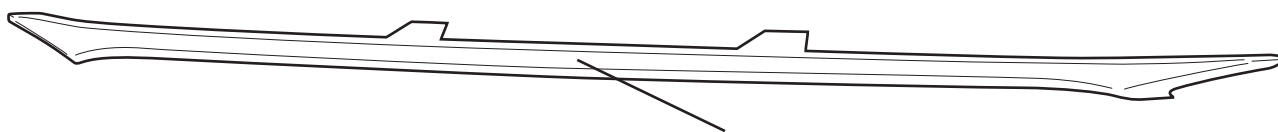
エンドモール推奨使用色

I. 塗装作業

1. 塗装面の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで取り除き、必ず脱脂を行う。
2. 製品に貼り付けてある両面テープ・M6 ボルト部を全面マスキングする。
3. プライマー塗装を行う。
4. 上塗り塗装を行う。
注記：上塗り塗料はウレタン系をご使用下さい。
5. 硬化

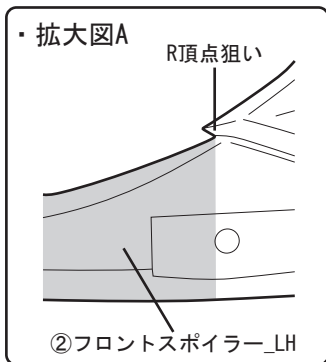
注記：硬化温度は、成形樹脂の物性上、必ず60℃以下で硬化させて下さい。

※RH側も同様の手順で塗装を行う。



<図1>

ボディ色のみ



■部：艶消し黒

ボディ色

②フロントスポイラー_LH

A

<図2>

II. ⑥プライマーの塗布

※本紙では、LH側の取付手順について説明しています。RH側も、同様の手順で取付作業を行なって下さい。

1. 塗装終了後、⑪エンドモール・⑧メッキガーニッシュ_LH（以下、メッキガーニッシュと省略）を貼り付ける部分を脱脂し、⑥PACプライマー N200を塗布する。（図3参照）



アドバイス

- ・プライマーはスポイラー取り付け時に再度使用します。
- ・揮発性が高いので、速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。
- ・プライマー塗布部以外は必要に応じてマスキングをして下さい。



アドバイス

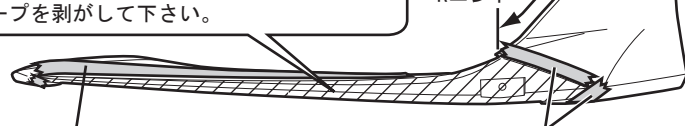


⑧メッキガーニッシュを仮合わせし、外周に合わせてマスキングをして下さい。その後⑥PACプライマー N200を塗布し、乾燥後マスキングテープを剥がして下さい。

⑥プライマー塗布範囲

Rエンド

(5mm)



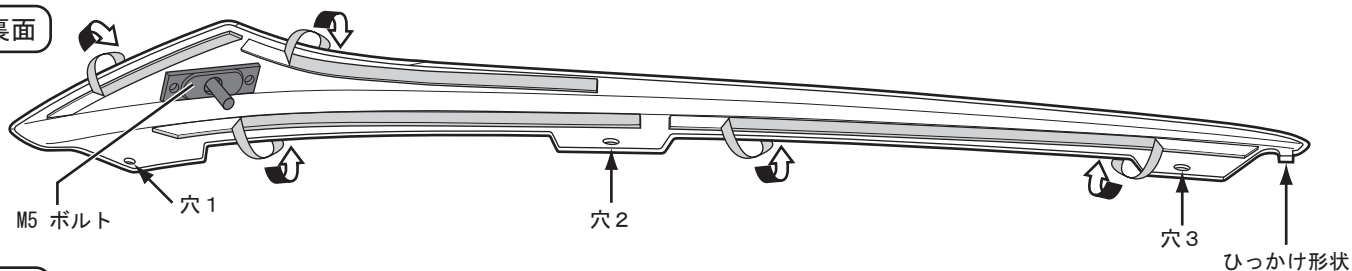
<図3> マスキングテープ

マスキングテープ

III. ⑧メッキガーニッシュの組み付け

1. ⑧メッキガーニッシュの両面テープ離型紙を少し剥がし、表側へ折り返しマスキングテープで止める。（図4参照）

裏面



M5 ボルト

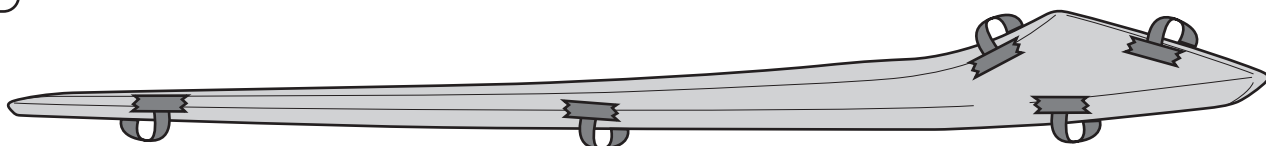
穴1

穴2

穴3

ひっかけ形状

表面

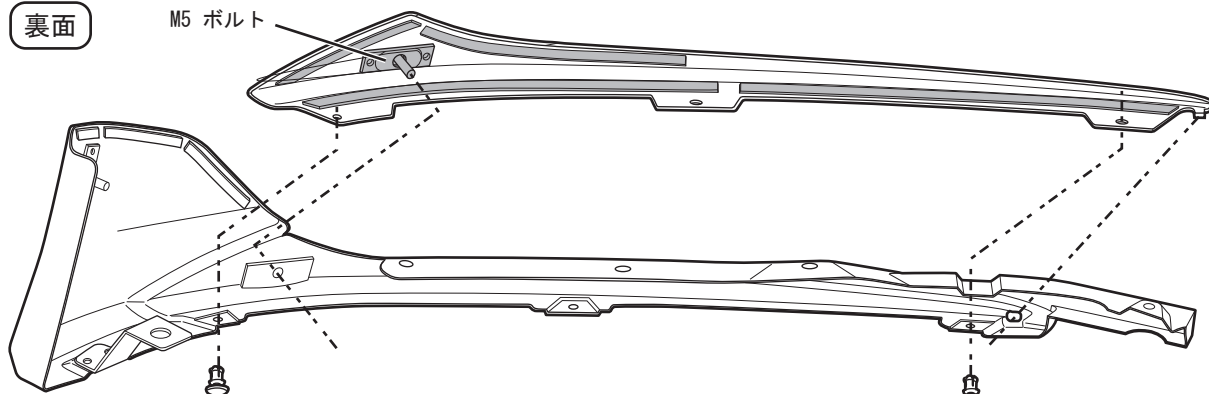


<図4>

2. ②スポイラー_LHに⑧メッキガーニッシュ裏のM5 ボルトを差し込む。（図5参照）
※M5 ボルトを差し込む際、両面テープの先付きに注意してください。
3. ⑧メッキガーニッシュ下面の穴1・3に⑨クリップ (1028)を差し込み、仮締めする。（図5参照）
※⑨クリップ (1028)の本締めは両面テープ圧着後に行います。
4. ②スポイラー_LHに⑧メッキガーニッシュ先端のひっかけ形状を差し込む。
※ひっかけ形状を差し込む際、スポイラー側の傷つき防止の為、差し込み穴外周を保護してください。

裏面

M5 ボルト



⑨クリップ (1028)

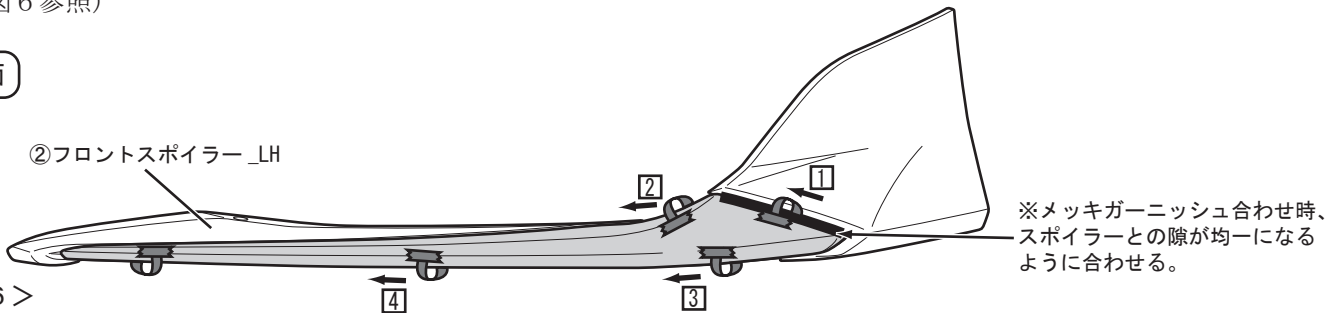
⑨クリップ (1028)

※RH側は対称形状とする。

<図5>

5. ②スポイラー_LHと⑧メッキガーニッシュの隙が均一になる様に合わせる。(図6 太線部 参照)
6. ⑧メッキガーニッシュの両面テープ離型紙を①～④の順番で引き抜きながら表裏両面から49Nで圧着する。(図6 参照)

表面



<図6>

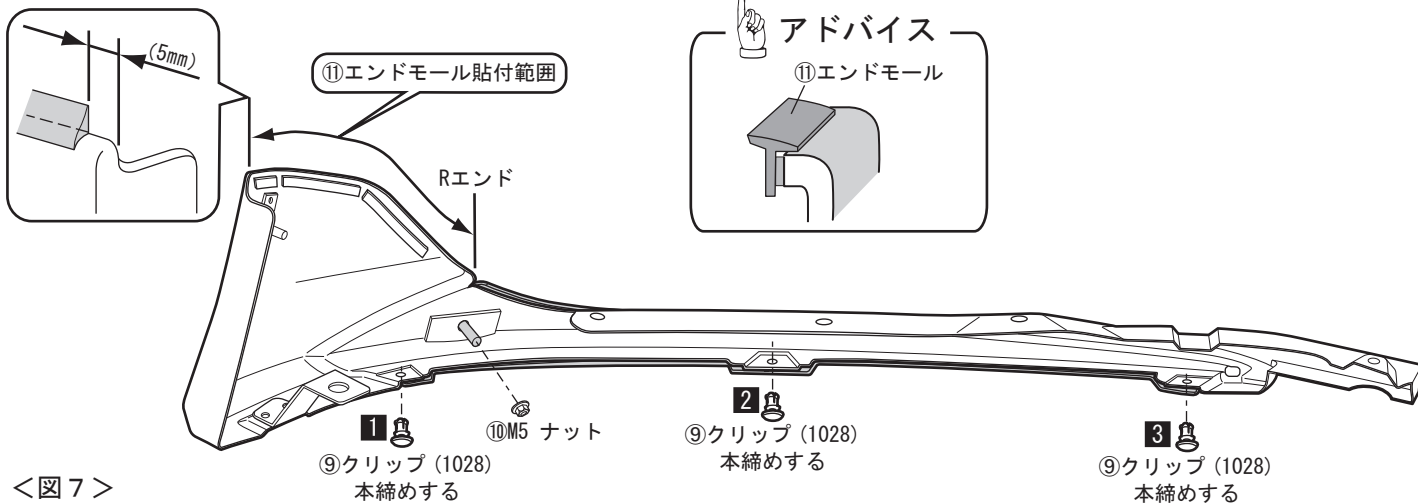
7. ⑨クリップ (1028)を⑧メッキガーニッシュ下面に差し込み、①～③の順に本締めする。(図7 参照)
※本締めの際は、車両外側から順番に固定してください。
8. ⑧メッキガーニッシュ裏のM5 ボルト (1ヶ所) を⑩M5 ナットで固定する。(図7 参照)



アドバイス

- ・⑩M5 ナットを固定する際は、表側のメッキを押さえながら固定してください。

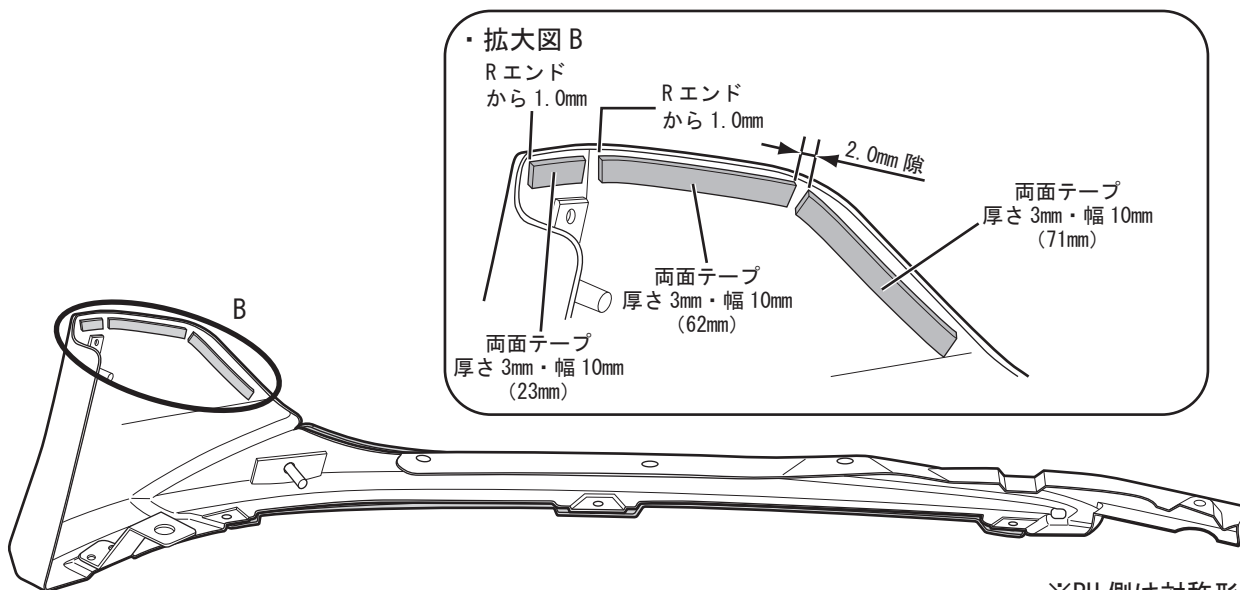
9. ⑪エンドモールを②スポイラー_LHに貼り付ける。



<図7>

※. 補修キット両面テープ貼り位置

1. 補修キットを使用して②スポイラー_LHの再取付を行う際は、下図を参照に両面テープを選択し貼り付けて下さい。



脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

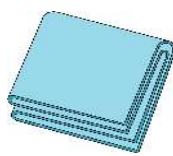


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
 - ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
 - ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

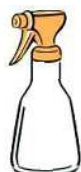
■ 取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス




WET 用
ウエス




イソプロピルアルコール(IPA)
純度 70%程度を推奨
※純度 100%はモールを痛めるため
使用しないこと

■ 脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

 アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。



使用禁止



ブレーキクリーナー
パーツクリーナー



ホームセンター等でキャンプ用
燃料用として販売されている
ホワイトガソリン〔白ガス〕

市販のブレーキ・パーツクリーナー及びキャンプ用品や燃料用のホワイトガソリンは
油脂分や不揮発性添加物が含まれているものがありますので使用しないで下さい。
コーティング剤の下地処理剤は、用途と異なるため脱脂作業には使用しないで下さい。
脱脂不足により、浮き・ハガレの原因となります。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

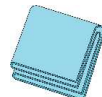
- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



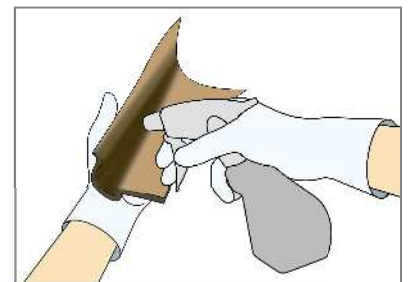
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

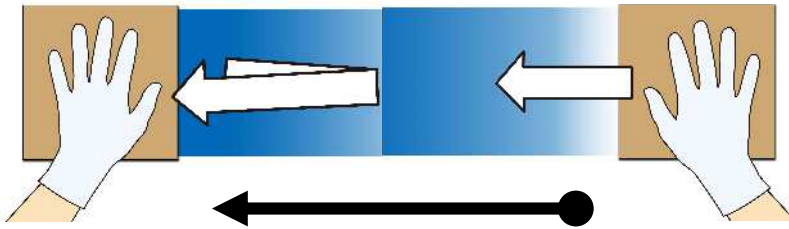
● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

脱脂剤を含ませたウエスで
1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

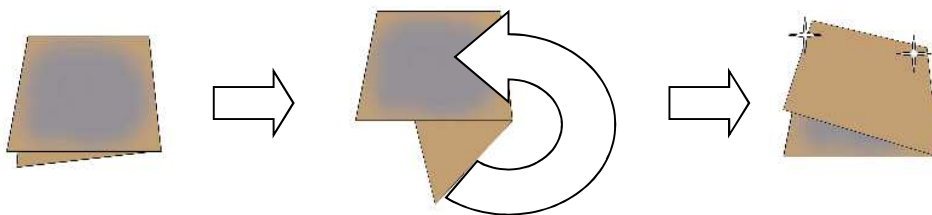
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3~5 ブロック 毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。